

どぶろく祭り



「三〇〇年の歴史をいただく」

白鬚田原神社どぶろく祭り
10月17日(木)・18日(金) 開催



小林茂さん

秋といえば実りの季節。稲穂も頭を垂れ、おなじみのどぶろく祭りももうすぐです。毎年楽しみにしている人も多いのではないのでしょうか。五穀豊穣・無病息災を願ってどぶろく祭りが始められたのは和銅3(西暦710)年のこと。西暦710年といえは奈良時代、ちょうど藤原京から平城京に遷都した年です。豊穣祈願などの宗教行事でどぶろくの製造を許されているのは全国でも少なく、伝統ある祭りは県選無形民俗文化財に選択されています。そして、その祭りを支える人々が国選無形民俗文化財に選択されているのはご存じでしょうか？

「昔は氏子の人数も多かったが、今は半分ぐらいになってしまった。少ない人数で多くの役割をこなさなければならず、氏子の負担が増えている。」

「20年くらい前まではあまり参拝者はいなかった。平成4年からひげ自慢コンテストや神楽の披露を始めて、一気に2万もの人が来てくれるようになった。」と昔を語ってくれたのは、今年「祝組」の一人を務める小林茂さん。「祝組」とは、「神元」「杜氏」と共にどぶろく祭りを執り行う組のことで、毎年氏子によつて組織された組が交代で務めます。このように、すべてを神職に任せるのではなく、特定の家族が役目を務め祭祀の運営に関わる行事を「とうや行事」といい、国東半島に残る「とうや行事」は国選無形民俗文化財に指定されています。

「今年は大きいバスを頼みました。毎年乗れない人がいるんです。」

「市内、県内のみならず遠くは関東からも観光客が訪れるどぶろく祭り。神前に供えたどぶろくが参拝者にふるまわれる大祭の日は、出店や大勢の人で賑わいます。この華やかな祭りの陰にも、人口減少の悩みは潜んでいます。」「祝組」のリーダーともいえる「祝元」は毎年各家が交代で務めており、以前は100年に一度しか回ってこない大役でした。今は氏子の人数が減り、59年に一度の周期になっているそうです。

【国東観光バス】(片道500円)

JR杵築駅 → 白鬚田原神社

出発時間	9:00	11:30	14:30
	9:30	12:30	15:00
	10:00	13:00	15:30
	10:30	13:30	
	11:00	14:00	

白鬚田原神社 → JR杵築駅

出発時間	9:45	12:15	15:15
	10:15	13:15	15:45
	10:45	13:45	16:15
	11:15	14:15	
	11:45	14:45	

【杵築市役所】(運賃無料)

大田庁舎 → 白鬚田原神社

出発時間	11:15
	11:40
	14:55

* 杵築市コミュニティバス(循環コース)が到着後に出発します。

白鬚田原神社 → 大田庁舎

出発時間	13:20
	16:30

* 杵築市コミュニティバス(循環コース)の発車時刻に合わせて出発します。

をご利用ください。

今年5月に「クヌギ林とため池がたぐく国東半島・宇佐の農林水産循環」が世界農業遺産に認定されました。一年の豊作を祈るとどぶろく祭りは、農業遺産として継承すべき伝統農業と深く関連した文化のひとつです。日本の一次産業の衰退が危ぶまれている今だからこそ、文化とともに「収穫に対する感謝の気持ち」を伝えていきたいですね。